



うちのイチ押し!

大阪市立美術館

千四百年御聖忌記念特別展

9/4(土)~10/24(日)

「聖徳太子 日出づる処の天子」

令和4(2022)年、聖徳太子が没して1400年目を迎えます。聖徳太子ゆかりの寺院では、聖霊会をはじめ太子の偉業を偲ぶ大規模な法会が催されます。このような100年に一度の節目にあわせ、聖徳太子の生涯をたどり、没後の聖徳太子信仰の広がりを紹介する展覧会を企画しました。

用明天皇の皇子として生まれた聖徳太子(574-622)は、推古天皇の摂政として十七条憲法の制定や遣隋使の派遣など国家体制の確立に大きく貢献

すると共に、大阪・四天王寺や奈良・法隆寺の創建に代表されるように仏教を篤く信奉し、現在まで続く日本仏教の礎を築きました。

太子生涯の事跡を描いた「太子絵伝」や成長する年齢ごとに表された「太子像」をはじめ、太子に関わる美術の全貌を、太子が推古天皇元年(593)に創建し常に太子信仰の中核を担ってきた大阪・四天王寺の所蔵品を中心に紹介します。



聖徳太子二歳像(南無仏太子像) 鎌倉時代
13~14世紀、京都・白毫寺
画像提供: 神奈川県立金沢文庫、撮影: 野久保昌良



馬上太子像 桃山時代
16~17世紀、大阪・叡福寺(前期展示)

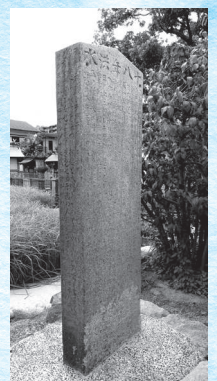
- 期間** 9/4(土)~10/24(日) 9:30から17:00(入館は16:30まで)
(前期:9/4~26、後期:9/28~10/24) 月曜休館(ただし9/20は開館)
- 会場** 大阪市立美術館(Osaka Metro・JR[天王寺]、近鉄[大阪阿部野橋])
- 入場料** 一般1,800円 高大生1,200円 大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金
※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料[要証明]
- 問合せ** 06-4301-7285(大阪市総合コールセンター)

明治十八年洪水—記憶しておきたい史上最大規模の水害—

このところ例年のように日本列島を豪雨が襲います。今回は、いまも時々話題に上がる明治18(1885)年に府内で起きた大洪水のことを記録した『洪水志』(明治20(1887)年刊)と東成区深江南三丁目にある「十八年洪水西歳記念碑」(大阪市顕彰史跡)という石碑などから振り返ってみたいと思います。

この年は6月中旬から雨がしきりに降り続き、ことに15~17日は激しい雨となりました。そうしたなか17日午後11時、ついに今の枚方市伊加賀で淀川の堤防が決壊します。奔流は北河内郡内に満ち、南へ進んで東成郡の各村落が水没しました。20日午後、網島大長寺裏の淀川左岸堤防の一部を切り崩して冠水した水を流す措置をとり、事態は収束に向かうかに思われました。しかし、28日からまた暴雨となり、30日から7月初めの洪水により市域は上町台地や船場を除いて殆どが水没し、梅田停車場でも地上から約1.2mもの浸水がありました。このなかで2日正午には上流から流されてきたカキ船が衝突して土佐堀川に架かる梅檀木橋が落ち、その部材がさらに下流の淀屋橋・肥後橋を落下させました。また当時木橋であった天満・天神・難波の三大橋も次々に壊れ、明治9(1876)年に鉄橋化されていた難波橋の中之島から北側の部分だけが残りました。

上記の石碑には深江村において水位が庭の地面から約2.6mに達したこと、村民が上本町の寺院や旧練兵場に避難したことなどが詳しく記され、地元ならではの貴重な災害記録となっています。このため国土地理院の自然災害伝承碑にも登載されました。この石碑は現在、深江郷土資料館の敷地内に移設保存され、いつでも見学することができます。資料館の見学と合わせてぜひご覧ください。(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



「十八年洪水 西歳記念碑」
(深江郷土資料館)



おおさか

歴史探訪

160

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

深江郷土資料館: 東成区深江南3-16-14、電話06-6977-5555 (開館日時をお確かめのうえお出かけください)